

中間支援活動助成(基本)事業 実績報告

団体名	(特非)コミュニティアートセンタープラッツ	代表者名	(職名) 代表理事	(氏名) 三笠 孔子
事業名	継続した地域の活動者掘り起こしと、協創の芽を生む土壌作り			

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 実績	11回/8件	2件+随時提供	45人/4回	3件	0件
R7 計画	12回	2件+随時提供	30人3/回	2件	0件
R7 実績	5回5件	2件+随時提供	32人/3回	1件	0件

< 効果と成果 >

広域な但馬地域を活動エリアとする中において距離的な問題は常に避けられない課題となっているが、物理的な距離が近くなることはなく、それをどのようにクリアするかが重要となる。

「オンライン支援」も対応可能な準備を整えているが、相談者が高齢で操作が分からないなどの理由もあり、対面が中心で、内容が複雑でない場合は電話での相談となっている。

設立相談に関しては、オンラインを提案しても「直接行きます」という方が多く、対面での支援を行った。来年度はオンライン相談の周知を図るため、次年度当初にチラシを作成し、広報を進めたいと考えている。

人材育成に関する講座は実際に相談が多い会計を軸として、様々な場面で耳にするようなニーズに応えるような内容のものを開催している。今年度は活動者として始動する方向けのイベント企画を内容から考えられる講座を開催し、単にイベントを開催して終わるのではなく、そこにどのようなストーリーがあり、いかに共感してもらえるかが今後重要になるかを学べる機会となり、大変好評であった。書類作成依頼が少ないことはそのニーズがあまりないものと考えており、それに関する講座等を開催せず随時対応としている。また、地域しごとサポートセンター但馬の存在もあり、相談・支援も分散していることも関係している。

< 今後の展望 >

今年度も『但馬コミュニティ協創会議』を重点事業として2回行い、合計53名の参加者であった。2回目の第8回は地域活動を行う高校生の参加もあり、実際に取り組んでいる事業の紹介もしてもらうことで他の参加者に知ってもらい、より多くの賛同者を得る機会となったと感じている。今年度にこの協創会議で生まれた事業として、「の～んびりのびびフェス2025」が行われた。大学生と子育てママ、地域の活動者が出会い企画が進み実現したもので、たくさんの体験や昔の遊びができる内容で、ママ同士もお話することができ、文字通りの～んびりできる一日になった。課題としては、会議の参加者属性がプレイヤー多数であった場合、それぞれの主張が多くなり、感じている地域の課題などを共有できないということが

ある。その場合協創に向かうことが難しく、対話の着地点が曖昧になってしまう。そのような状況の流れにならないよう地域を知る、数名のファシリテーターが会議の中に参加していることが望ましいと考えているが適任者が不足していることも課題である。また、より多くの人と繋がりがあり、行動力のある地域コーディネーターのような存在を増やす必要があると感じており、これは広い但馬エリアから潜在的な活動者の掘り起こしを進めるためには重要な存在と言える。現在活動している地域コーディネーターを増やしていく、もしくはその後継者を育成していく必要もあるので、人材育成の点からも講座の開設も検討したい。

<収支決算書>
(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
自己財源等	71,140
合 計	571,140

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	謝金	120,000	120,000
	旅費交通費	32,700	32,700
	印刷費	48,860	48,860
	その他(通信費等)	228,780	175,140
	小 計	430,340	376,700
	間接経費(一般管理費)	140,800	123,300
	合 計	571,140	500,000